

大分県スポーツ推進計画改訂版

～チャレンジおおいたスポーツプラン2016～

における具体的な取組一覧表について

—目次—

健康・体力・人づくり

- 1 幼児期・少年期におけるスポーツの推進・・・・・・・・・・ 1
- 2 青年・壮年期におけるスポーツの推進・・・・・・・・・・ 2
- 3 高齢期におけるスポーツの推進・・・・・・・・・・ 3
- 4 障がい者スポーツの推進・・・・・・・・・・ 4
- 5 競技力向上対策の推進・・・・・・・・・・ 5

活動の場づくり

- 1 総合型地域スポーツクラブの推進・・・・・・・・・・ 6
- 2 ライフステージに応じたスポーツイベントの充実・・・・・・・・・・ 7
- 3 地域の特性を活かした活動の場の充実・・・・・・・・・・ 8
- 4 学校スポーツ施設の充実と有効活用・・・・・・・・・・ 9

システムづくり

- 1 「みる」「ささえる」スポーツイベントの推進・・・・・・・・・・ 10
- 2 スポーツボランティア活動の推進・・・・・・・・・・ 11
- 3 スポーツ情報の収集と提供・・・・・・・・・・ 12
- 4 プロスポーツ・企業スポーツの推進・・・・・・・・・・ 13
- 5 スポーツに関する顕彰制度の充実・・・・・・・・・・ 14

基盤づくり

- 1 行政組織の連携とスポーツ関係団体の充実・・・・・・・・・・ 15
- 2 スポーツ施設の整備・充実と支援体制の整備・・・・・・・・・・ 16
- 3 スポーツ推進のための財政基盤の確立・・・・・・・・・・ 17

【幼児期・少年期におけるスポーツの推進】

目標		
<p>学校、家庭、地域が連携した多様な活動を体験する中で、自ら運動する意欲を培い、積極的に外遊びやスポーツに親しむ習慣や正しい生活習慣を子どもに身につけさせることにより、元気でたくましく生きる子どもたちを育成する。</p>		
<p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力テスト結果で、総合評価C以上の割合を、平成32年度までに小5男子77.2%、小5女子81.0%、中2男子75.2%、中2女子87.8%とする。</p>		
(基準値：平成26年度)	平成29年度	(目標値：平成32年度)
小5男子 75.8%	小5男子 80.0%	小5男子 77.2%
小5女子 78.1%	小5女子 84.4%	小5女子 81.0%
中2男子 72.0%	中2男子 77.8%	中2男子 75.2%
中2女子 84.2%	中2女子 89.4%	中2女子 87.8%
具体的な取組	成果・課題・今後の取組等	項
①幼児期から子どもの体力向上方策の推進 【体育保健課】	○小学校教員対象に、低学年の授業づくりに向けた「幼児期の運動」を題材とした研修を行い、指導力向上を図った。今後も市町村と連携し、体力向上に係る幼小の接続を意識した研修を行う。	P 11
②学校体育の充実 【体育保健課】	○小学校体育専科教員24名と中学校体力向上推進教員16名を中心とした体育授業の工夫改善、学校全体で体力向上に取り組む「一校一実践」、中学校・高校女子を対象としたヨガやダンスなどの取り組みやすい運動機会の創出などに取り組み、総合評価C以上の割合が増加した。	P 12
③運動部活動の充実 【体育保健課】	○体罰根絶や事故防止を含む研修を行い、指導者の質の向上を図ってきた。今後は、外部指導者を対象とした研修会も実施し、適切で効果的な部活動の一層の推進を目指す。	P 12
④子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実 【県体育協会】 【体育保健課】	○スポーツ少年団では、指導者や保護者を対象とした倫理観向上やスポーツ外傷等の防止に向けた研修会を県、ブロック単位で開催しており、指導者の資質向上や日常の活動を支える母集団の意識高揚につながっている。 ○総合型クラブと連携し、子ども・大人・高齢者・障がい者が一堂に会して、様々な運動を体験することができる「おおいたスポーツ交流フェスティバル」を実施した。	P 13
⑤食育の充実 【体育保健課】	○学齢期のほとんどの年代で、肥満傾向児出現率が全国平均を上回っているなど、バランスのよい身体づくりに課題がある。望ましい食習慣の形成などが重要なことから、食育の中心的役割を担う栄養教諭を活用した食育の推進を図る。	P 13

【青年・壮年期におけるスポーツの推進】

目標		
<p>個人の運動やスポーツへの主体的な取組の推進とライフステージに応じたスポーツ環境の整備、また、関係部局等と連携した取組を通して、定期的にスポーツに親しむ青・壮年を育成する。</p>		
<p>成人の週1回以上の運動・スポーツ実施率を、平成32年度までに51.2%とする。</p>		
(基準値：平成25年度)	平成29年度	(目標値：平成32年度)
40.5%	48.5%	51.2%
具体的な取組	成果・課題・今後の取組等	項
<p>①地域や職場におけるスポーツの推進</p> <p>【健康づくり支援課】</p> <p>【体育保健課】</p>	<p>○みんなで延ばそう健康寿命推進月間中の運動イベント数は年々増加し、スポーツに親しむ機運が高まってきた。引き続き、市町村、関係団体（総合型クラブ等）と連携し、月間中の運動イベント拡大と参加者の増加を目指す。</p>	<p>P</p> <p>15</p>
<p>②総合型クラブへの加入促進</p> <p>【体育保健課】</p>	<p>○青年・壮年期の加入促進については、ニーズに応じた教室の展開や実施時間帯の工夫、総合型クラブの認知度向上などの課題がある。今後は、商業施設などに出向き、民間と連携して認知度を高める活動や、ファミリー層へのアプローチなどを実施していく。</p>	<p>P</p> <p>15</p>
<p>③青・壮年層を取り巻くスポーツ環境の充実</p> <p>【体育保健課】</p>	<p>○青・壮年層を対象に、効果的な歩き方や姿勢、シューズ選びなどを学習するウォーキング教室や、気軽に取り組めるノルディック・ウォーキング教室などを、総合型クラブと連携して開催している。</p>	<p>P</p> <p>15</p>
<p>④職場や関係機関等と連携した取組</p> <p>【健康づくり支援課】</p>	<p>○主に働く世代の運動習慣定着に向けたスマートフォン用健康アプリ「おおいた歩得」を開発。実証期間中に利用者1万人を達成。今後は、健康経営事業所等と連携し、職場ぐるみのグループ登録による利用者拡大に取り組む。</p>	<p>P</p> <p>15</p>

【高齢期におけるスポーツの推進】

目標		
<p>スポーツイベントや健康教室の開催、指導者の養成と効果的な運動プログラムの普及、健康・体力づくり等に関する情報提供などを行い、スポーツを通して健康でいきいきとした元気な高齢者を増やすことで、健康寿命の延伸を図る。</p>		
<p>豊の国ねんりんピックの参加者数を、平成 32 年までに 5,900 人とする。</p>		
(基準値：平成 26 年度)	平成 29 年度	(目標値：平成 32 年度)
5,498 人	5,516 人	5,900 人
具体的な取組	成果・課題・今後の取組等	項
<p>①高齢者の健康・体力づくりの推進 【高齢者福祉課】</p>	<p>○市町村及び競技団体と連携して豊の国ねんりんピックを開催するとともに、公益財団法人大分県老人クラブ連合会が主催する老人クラブスポーツ大会を支援している。今後も関係機関と連携して、参加者の増加を図る。</p> <p>○運動を中心に活動をしている県内グループを対象に交流大会（先進事例の活動報告や介護予防に関する講演会等）を開催している。今後も継続した開催を通し、住民主体の介護予防の運気を高めることで、地域における介護予防の充実につなげる。</p>	P 17
<p>②総合型クラブへの加入促進 【体育保健課】</p>	<p>○高齢者の介護予防に効果のある「貯筋運動（筋力トレーニングプログラム）」の指導者を県内総合型クラブに育成している。今後は、県内各地で市町村や施設などと連携し、貯筋運動の実施や指導者の活用ができる体制を構築する。</p>	P 17
<p>③指導者の養成とプログラムの普及 【体育保健課】 【高齢者福祉課】</p>	<p>○上記②の貯筋運動指導者が、総合型クラブを中心に「貯筋運動体験教室」を実施している。</p> <p>○県内市町村と連携しながら、「めじろん元気アップ体操（運動機能向上プログラム）」を主軸に、体操の普及（指導者の派遣・研修会の開催・パンフレットの配布等）と住民主体の通いの場の拡大を推進している。今後は上記に加え、平成 29 年度に作成した通いの場で活用できる介護予防マニュアルを活用し、地域における介護予防活動の一層の充実を図る。</p>	P 17
<p>④健康・体力づくりなどの情報提供 【高齢者福祉課】</p>	<p>○生活不活発病や口腔機能など介護予防に関する情報をホームページで発信するとともに、介護予防に関するパンフレットを、市町村を通じて配布している。 (年間約 15,000 部)</p>	P 17

【障がい者スポーツの推進】

目標		
<p>障がい者の多様なニーズに対応できる指導者やボランティアを養成するとともに、障がい者スポーツにおける競技力向上を支援します。また、障がいの程度に応じてスポーツに親しめる環境を整備するとともに、ユニバーサルスポーツを普及し、障がい者スポーツの推進による障がい者の社会参加を促進する。</p>		
<p>大分県障がい者スポーツ大会への延べ参加者数を、平成 32 年までに 2,802 人とする。</p>		
(基準値：平成 26 年度)	平成 28 年度	(目標値：平成 32 年度)
2,502 人	2,713 人	2,802 人
具体的な取組	成果・課題・今後の取組等	項
<p>①障がい者のスポーツ機会の拡充</p> <p>【障害福祉課】 【体育保健課】</p>	<p>○NHK・総合型クラブと協働し、スポーツイベントを開催。地域の学校と障がい者施設が定期的にスポーツ交流を深めている好事例がある。地域におけるスポーツ活動の拠点づくりを進める。(学校等のスポーツ使用目的の開放など)</p> <p>○県民すこやかスポーツ祭に、障がい者スポーツ大会(卓球バレー・障がい者ボウリング・知的障がい者バレーボール)が新たに加わった。</p>	P 19
<p>②障がい者のスポーツ環境の整備</p> <p>【障害福祉課】 【体育保健課】</p>	<p>○総合型クラブ、特別支援学校教員を対象に障がい者スポーツ指導者養成講習会を大分県障がい者体育協会主催で2回開催。指導者養成講習会を、指導者協議会と協働で開催し、参加対象を拡大する。</p> <p>○SCおおいネットワークや競技団体と連携し、卓球バレー指導者講習会を実施した。今後も、卓球バレー指導者の養成を図る。</p>	P 19
<p>③障がい者スポーツの競技力向上</p> <p>【障害福祉課】</p>	<p>○現状は、全国障害者スポーツ大会における大分県選手団メダル獲得数が減少傾向にある。全国的に競技レベルが向上しており、その中でも障がい者スポーツ先進県である大分県として、存在感を示していきたい。上記①、②の取組を通じ、スポーツ人口の裾野の拡大と競技力向上の2方面から進めていきたい。</p>	P 19
<p>④障がい者スポーツの優秀選手の支援</p> <p>【障害福祉課】</p>	<p>○大分県内在住の選手で延べ13名の強化指定選手のうち、6名が国際大会に出場している。各選手、出場した大会ではメダルの獲得や表彰を受けるなどの成果を出している。2020年に東京で開催されるパラリンピックに向けて、出場が期待される本県出身及び県内選手を支援する。</p>	P 19

【競技力向上対策の推進】

目標		
<p>組織の整備・充実、指導体制の充実・強化、選手の発掘・育成・強化、諸条件の整備などの取組を通して、国際大会や全国大会で活躍できるトップレベルの競技者を育成する。</p>		
<p>高校生の全国大会における上位入賞者数を、平成 32 年度までに 100 とする。</p>		
(基準値：平成 26 年度)	平成 29 年度	(目標値：平成 32 年度)
93	113	100
具体的な取組	成果・課題・今後の取組等	項
<p>①組織の整備・充実</p> <p>【体育保健課】</p> <p>【県体育協会】</p>	<p>○関係競技団体の組織体制の強化に向け、毎年2回のヒアリングを実施し、P D C Aサイクルの徹底に取り組んでいる。今後も、国民体育大会に向けた「チーム大分」としての取り組みを推進し、組織の活性化と体制強化をめざす。</p> <p>○競技団体とのヒアリングを通して、指導体制について協議を重ねている。</p>	P 20
<p>②指導体制の充実・強化</p> <p>【体育保健課】</p> <p>【県体育協会】</p>	<p>○成果としては、2017年日本体育協会公認スポーツ指導者登録者数が2022名となり、2016年から85名増加している。課題としては中学校の運動部活動における優秀指導者の適正配置が進んでいない。今後は、競技団体・学校体育団体・県体協と連携し、一貫した指導体制の構築に向けて取り組む。</p> <p>○日本体育協会公認スポーツ指導者養成講習会県内講習会や、公認スポーツ指導者を対象とした指導者資格更新の義務研修会を開催し、指導者の資質向上を推進している。</p>	P 21
<p>③選手の発掘・育成・強化</p> <p>【体育保健課】</p> <p>【県体育協会】</p>	<p>○平成27年度に事業を開始し、現状は育成選手第1期生を関係競技団体にパスウェイし、育成・強化システムにて競技力向上に取り組んでいる。平成30年度は、第2期生のプログラム実施と第3期生の募集を計画している。</p> <p>○ジュニア選手発掘支援として、平成28年度は、17団体、29年度は15団体に交付できた。今後も、競技人口の拡大に向けて更なる事業の充実が必要と考えられる。</p>	P 21
<p>④諸条件の整備</p> <p>【体育保健課】</p> <p>【県体育協会】</p>	<p>○スポーツ医・科学やドーピング防止について、メディカルチェック・体力診断・研修会等に取り組み、競技者を総合的にサポートできる体制を構築している。アスナビを中心とした就職支援体制の充実にも努めている。</p> <p>○毎年ドーピング防止研修会を開催し、加盟競技団体担当者を通して、啓発活動を行っている。現時点で県内関係者からドーピング違反者は出ていない。今後はあらゆる場面において周知していきたい。また、医科学委員会の充実も推進していきたい。</p>	P 21

【総合型地域スポーツクラブの推進】

目標		
<p>総合型クラブの未育成地域における新規創設や、育成された総合型クラブの活動エリアの拡大に向けた市町村等の取り組みを支援し、総合型クラブの活動がスポーツを通じて「新しい公共」を担い、コミュニティの核として県内全域で展開されることをめざし、地域住民の日常的なスポーツ活動の場づくりを推進する。</p>		
<p>総合型クラブの会員数を、平成 32 年度までに 18,450 人とする。</p>		
(基準値：平成 26 年度)	平成 29 年度	(目標値：平成 32 年度)
16,090 人	17,089 人	18,450 人
具体的な取組	成果・課題・今後の取組等	項
<p>①広域スポーツセンターの機能の充実</p> <p>【体育保健課】</p> <p>【県体育協会】</p>	<p>○総合型クラブ連絡会や市町村巡回訪問等を実施し、総合型クラブの運営について情報提供や助言を行っている。競技者の育成については、総合型クラブに対しての働きかけが必要。</p>	<p>P</p> <p>22</p>
<p>②公共性の向上に向けた市町村の取組への支援</p> <p>【体育保健課】</p>	<p>○市町村のスポーツ推進計画策定委員会に出席し、総合型クラブの育成を計画に位置づけるよう助言している。イベントの委託については、積極的に総合型クラブを活用するよう市町村に働きかけを図る。</p>	<p>P</p> <p>23</p>
<p>③総合型クラブおおいたネットワークとの連携</p> <p>【体育保健課】</p> <p>【県体育協会】</p>	<p>○広域スポーツセンター機能の一部を総合型クラブおおいたネットワークに移管するため、クラブマネージャー養成初級講習会の運営業務を委託している。今後は団体の法人化に向け、協議を進めていく。</p>	<p>P</p> <p>23</p>
<p>④拠点施設とクラブハウスの整備・充実</p> <p>【体育保健課】</p>	<p>○拠点施設（公共施設内）及びクラブハウスを所有しているクラブは 44 クラブのうち 36 クラブが所有している。公共施設の利活用については、今後も市町村に対して働きかけが必要。</p>	<p>P</p> <p>23</p>
<p>⑤組織の充実と整備・NPO 法人格の取得</p> <p>【体育保健課】</p> <p>【県体育協会】</p>	<p>○現在、44 クラブのうち 14 クラブが NPO 法人格を取得している。今後も、研修会などで、その他の総合型クラブに、NPO や一般社団などの法人格取得についての情報提供が必要。</p>	<p>P</p> <p>23</p>

【ライフステージに応じたスポーツイベントの充実】

目標		
実施方法の工夫・改善や効果的な広報活動の確立、また、環境に配慮したイベントの開催や文化イベントの同時開催など、スポーツイベントの充実と質の向上に努め、スポーツに親しむ県民の増加や地域の活性化に寄与できる活動の場づくりを推進する。		
具体的な取組	成果・課題・今後の取組等	項
①少年期のスポーツイベントの充実 【県体育協会】 【体育保健課】	○本県スポーツ少年団では、各競技別交流大会や競技の枠を越え、全団が参加できる駅伝交流大会を開催している。また、団員や指導者がスポーツ活動・文化学習活動・野外活動等を行う交歓交流大会も全市町村で開催している。スポーツ少年団の指導者・団員登録者数は、平成27年度から3年連続で増加しており、各種大会への参加者数も増加している。 ○総合型クラブ交流会では、スポーツ少年団の小学生や、地域の中学生在が、障がい者スポーツなど、多様なスポーツに触れるイベントを実施した。	P 25
②青・壮年期のスポーツイベントの充実 【体育保健課】	○県民体育大会、総合開会式では、地域の特性を活かした演出と本県ラグビー大使を招いたスポーツ教室など、イベントの魅力向上と内容の充実に取り組んだ。県民すこやかスポーツ祭は、36種目110を超える種目別大会を開催した。平成29年度から、障がい者体育協会が協力団体に加わった。総合型クラブには、会員増加に向け、県民すこやかスポーツ祭に参加するよう働きかける。	P 25
③高齢期・障がい者のスポーツイベントの充実 【高齢者福祉課】 【障害福祉課】	○平成29年度に開催した第28回豊の国ねんりんピックには、約5500名が参加した。今後も市町村と連携して、参加者の増加を図る。 ○平成29年度第12回大分県障がい者スポーツ大会では、個人競技（陸上、水泳、卓球、フライングディスク）に延べ1,250名が参加し、うち60歳以上の参加人数は延べ278名	P 25

【地域の特性を活かした活動の場の充実】

目標		
<p>市町村と連携し、地域の潜在的なスポーツ資源の発掘と関連設備の整備、また、観光資源等と組み合わせたスポーツツーリズムを推進するとともに、刊行物の作成やインターネット等を活用した情報提供を積極的に行い、広く県内外から多くの人々が集い、活動し、交流できる場づくりを推進する。</p>		
具体的な取組	成果・課題・今後の取組等	項
<p>①豊かな自然を活かしたスポーツ活動の場の整備 【体育保健課】</p>	<p>○宇佐市院内町の観光資源である、「大飛（おおとぶ）の滝」を見学できるトレッキングコースが設定され、それに伴い案内版や駐車場が整備された。また、院内町の総合型クラブへ委託したウォーキングイベントが実施された事例がある。</p>	P 26
<p>②身近で取り組めるスポーツ活動の場の整備 【観光・地域振興課】</p>	<p>○国・県・市町村及び民間事業者等で構成する「メイプル耶馬サイクリングロード活性化会議」において、平成28年10月25日に中津市長に対し、安全で快適なサイクリング環境づくりを含めた提言を行った。</p>	P 26
<p>③天然・自然環境を活用したスポーツプログラムの開発とその情報提供 【観光・地域振興課】 【体育保健課】</p>	<p>○大分県で4コース目となる「さいき・大入島コース」が平成29年12月27日に九州観光推進機構から「九州オルレ」として認定された。平成30年3月10日にオープニングセレモニーが開催され、国内、韓国から多くのトレッキング愛好者が訪れた。</p> <p>○総合型クラブへの委託事業では、史跡巡りウォーキング、滝見学ウォーキングなど、地域の自然環境を活用したスポーツプログラムを40クラブ（H29）が実施した。</p>	P 26

【学校スポーツ施設の充実と有効活用】

目標		
<p>学校が地域のスポーツ資源として有効に活用されるよう、体育施設の整備・充実を図るとともに、県立学校体育施設の地域住民への開放を促進することで地域住民が日常的にスポーツに取り組み、交流できる場づくりを推進する。</p>		
具体的な取組	成果・課題・今後の取組等	項
<p>①学校体育施設・設備の整備・充実 【教育財務課】</p>	<p>○宇佐産業科学高等学校、日田三隈高等学校及び日田支援学校の体育館出入口にスロープを設置した。今後も大規模改修などを活用して体育施設の整備・充実を図っていく。</p>	<p>P 27</p>
<p>②学校体育施設開放事業の推進 【体育保健課】</p>	<p>○体育保健課の県立学校体育施設開放事業では、15校を指定校とし、学校の教育活動に支障のない範囲で、体育館・グラウンドを無料開放している。部活動が盛んな高等学校では、開放できない学校が多いため、今後は支援学校の開放校の増加に向け働きかける。</p>	<p>P 27</p>

【「みる」「ささえる」スポーツイベントの推進】

目標		
<p>県民のスポーツに対する興味・関心を高めるとともに、競技力の向上やスポーツを通じた地域の活性化に寄与できるよう、企画・計画・運営等を行うシステムを構築し、大規模スポーツイベントを計画的に誘致・開催する。</p>		
<p>スポーツ合宿の実施件数を、平成 32 年までに 1,500 件とする。</p>		
(基準値：平成 26 年度)	平成 28 年度	(目標値：平成 32 年度)
1,165 件	1,473 件	1,500 件
具体的な取組	成果・課題・今後の取組等	項
<p>①RWC2019の開催とレガシーの創造 【RWC2019推進室】</p>	<p>○現在、大会成功に向けて主に機運醸成の取組を行っている。昨年 1 1 月に試合日程が決まったことから、今後は、機運醸成に加えて、会場整備、交通輸送、危機管理・救急医療、観光・おもてなしの取組を本格化していく。</p>	P 29
<p>②国際大会や全国トップレベル大会の誘致 【芸術文化スポーツ振興課】</p>	<p>○世界大会に出場するフェンシングのイタリアチーム等 9 カ国やフィジー女子 7 人制ラグビーチームの事前キャンプを受入。その結果、日本フェンシング協会と、東京五輪に向けたサーブル競技の事前キャンプ協定書を締結。フェンシングのキャンプ実施にあたって、試合用器具の不足分を他自治体から借用しており、自前の整備が必要。また、ハンドボール女子日本代表とポーランド、アンゴラ代表との国際強化試合を開催。</p>	P 29
<p>③日本代表等のナショナルチームのキャンプ誘致 【芸術文化スポーツ振興課】</p>	<p>○フェンシング日本代表の合宿をはじめ、箱根駅伝史上 6 校目の 4 連覇の偉業を成し遂げた青山学院大学陸上競技部春季キャンプを受入。(今年で 3 回目：H30.3.13～22) また、佐伯市でGMOアスリーツ(実業団マラソンチーム)、国東市で法政大学重量挙げ部の合宿を受入。今後も企業・大学等の合宿の誘致に取り組む。</p>	P 29
<p>④子どもたちの観戦促進 【芸術文化スポーツ振興課】</p>	<p>○子どもたちにスポーツを身近に感じていただくために、ハンドボール女子日本代表の国際強化試合を入場無料で開催。今後も、子どもたちにスポーツへの関心・興味を持ってもらうため、関係団体等への働きかけを行う。</p>	P 29
<p>⑤スポーツイベントの活用の推進 【芸術文化スポーツ振興課】</p>	<p>○キャンプや国際大会受入時には、地元住民との交流やイベントを実施している。各国の文化や競技を知る機会を設けることで国際交流や競技力の向上など地域の人材育成や観光振興につなげている。</p>	P 29
<p>⑥スポーツツーリズムの推進 【芸術文化スポーツ振興課】</p>	<p>○スポーツ合宿等に適した県内スポーツ施設の情報をワンストップで検索できるHP「大分県スポーツツーリズムガイド」を開設し、県内のスポーツ施設、合宿可能な宿泊施設、助成金制度などを掲載し、情報提供を行っている。</p>	P 29

【スポーツボランティア活動の推進】

目標		
一人でも多くの県民がスポーツボランティア活動に参加できるよう、競技団体や社会福祉協議会等と連携し、希望者の登録や活動機会の提供、また、スポーツボランティア研修会の開催等を行うシステムを構築する。		
具体的な取組	成果・課題・今後の取組等	項
①スポーツボランティアの啓発 【RWC2019推進室】 【障害福祉課】 【芸術文化スポーツ振興課】	○ラグビーワールドカップ2019関連イベントにおけるボランティアの活用や、実際にスポーツボランティアとして活躍される方による講演会の開催により、スポーツボランティアに対する関心を高めた。平成30年4月からラグビーワールドカップ2019のボランティア募集を行う予定であり、広く周知を行っていく。 ○大分トリニータのホームゲームを支える「大分トリニータボランティアの会」が組織されており、クラブのホームページで活動内容を紹介し募集している。	P 30
②スポーツボランティアの発掘と育成 【RWC2019推進室】 【障害福祉課】 【芸術文化スポーツ振興課】	○スポーツボランティアに興味のある方を対象に、スポーツボランティアの基礎知識やコミュニケーションスキルを習得する研修会を実施した。今後は、ラグビーワールドカップ2019のボランティアに対して必要な知識等について研修を実施していく予定。 ○上記①のボランティアの会では、月例会議や親睦イベントを開催し、会員の交流を図るとともに、スキルアップを図っている。また、会員の高齢化が課題である。	P 31
③スポーツボランティアの活用 【RWC2019推進室】 【障害福祉課】 【芸術文化スポーツ振興課】	○ラグビーワールドカップ2019関連イベントにおけるボランティアの募集をラグビー協会や社会福祉協議会等と協力して行うなど、関係団体との連携を図っている。ラグビーワールドカップ2019のボランティア確保に向けて、関係団体との連携を強化する。 ○ラグビーワールドカップ2019関係者と連携を図り、協力していく	P 31

【スポーツ情報の収集と提供】

目標		
<p>県民が興味・関心を持ち、スポーツ活動に主体的に取り組めるよう、効果的な情報提供を行うシステムを構築し、ホームページや広報誌等の充実と情報の共有化、ネットワーク化をめざす。</p>		
具体的な取組	成果・課題・今後の取組等	項
<p>①スポーツ情報提供システムの構築</p> <p>【体育保健課】 【県体育協会】</p>	<p>○「スポーツ情報提供システム検討委員会（仮称）」の設置に向けた具体的な取組は進んでいないが、体育保健課、RWC2019推進室等、各課室でスポーツ情報を提供している。今後については、関係課室と連携して早急に委員会の設立に向けて取り組まなければならない。また、競技力向上のみならず、年齢層に応じた日常のスポーツ活動も積極的に広報する必要がある。</p>	P 33
<p>②報道機関と連携した情報提供の充実</p> <p>【体育保健課】 【県体育協会】</p>	<p>○体育保健課ではフェイスブックや広報紙を活用し、県内のスポーツ情報を提供している。その他、年数回教育広報番組にて本県のスポーツに関連する情報提供を行っている。また、報道機関と連携して作成した、チラシやポスターで、イベント告知を行った。現在は、国民体育大会において活躍が期待される競技やジュニアアスリート発掘事業の取り組み等を放映している。</p> <p>○平成29年度に体育協会HPをリニューアルし、情報発信提供の充実を図った。今後は閲覧者の要望等を把握し、更なる充実を図っていきたい。</p>	P 33

【プロスポーツ・企業スポーツの推進】

目標		
<p>プロ・企業スポーツチームと学校や地域をつなぐシステムの構築など、各チームが地域と協働できる環境整備を行い、地域がチームを支える機運を醸成し、「みるスポーツ」の定着を図るとともに、スポーツ教室の開催など企業が行う地域貢献活動を推進する。</p>		
具体的な取組	成果・課題・今後の取組等	項
<p>①トップスポーツの推進 【芸術文化スポーツ振興課】</p>	<p>○県内のプロスポーツチームを活用し、学校訪問やホームゲームへの招待試合により、スポーツを身近に感じていただき、チームと学校や地域をつなぐシステムを構築するなど、トップスポーツを推進している。また、スポーツボランティア希望者に対する研修会等を実施し、トップチームを支えるボランティア確保を支援している。</p>	<p>P 34</p>
<p>②県民のトップスポーツ観戦の推進 【芸術文化スポーツ振興課】 【RWC2019推進室】</p>	<p>○多くの県民がホームゲームに足を運びプロチームを応援する契機とするため、県民の招待及び各種イベントを行う県民デーを開催し、観戦者の拡大を図っている。新規ファンの獲得による観戦者の拡大が課題である。 ○県内各地のイベントやメディアを活用してラグビー(ワールドカップ、トップリーグ等)の広報活動を行ってきた。昨年9月開催のトップリーグでは18,279人が来場した(昨季リーグ第3位の集客)。今後も、6月に開催される日本代表戦やワールドカップの広報に取り組んでいく。</p>	<p>P 34</p>
<p>③競技力向上に向けた企業との連携・協力 【体育保健課】</p>	<p>○トップアスリートの就職支援に向けた説明会や採用企業交流会の開催を通じて、雇用等の受け皿づくりに取り組んでいる。今後も更に企業との連携を強化し、競技力向上をめざす。</p>	<p>P 35</p>
<p>④地域貢献活動の推進 【芸術文化スポーツ振興課】</p>	<p>○県内プロチームの選手等を、地域貢献活動として、小学校や地域のイベント等に派遣している。今後も、プロチームが行う、子どもたちへのスポーツ普及活動や県民との交流を推進していく。</p>	<p>P 35</p>

【スポーツに関する顕彰制度の充実】

目標		
<p>国際大会等で活躍したアスリートやその指導者、またアスリートを輩出した企業等の功績を称えるとともに、県民の多様なスポーツ活動を支える個人や団体等、県民のスポーツ活動の励みとなる顕彰制度の充実に努める。</p>		
具体的な取組	成果・課題・今後の取組等	項
<p>①顕彰制度の充実 【体育保健課】</p>	<p>○国際大会や国民体育大会等の全国大会で優勝した個人・団体に対し、県民栄誉賞である「県賞詞」制度で表彰を実施している。また、大分県体育協会や学校体育団体が競技成績等に応じて表彰している。</p>	<p>P 36</p>

【行政組織の連携とスポーツ関係団体の充実】

目標		
<p>スポーツ推進に係る行政組織間の連携を強化し、横断的なスポーツ推進体制を整備するとともに、健康・体力づくりや競技力の向上などに取り組むスポーツ関係団体の充実を図り、県民の豊かなスポーツライフを支援する。</p>		
具体的な取組	成果・課題・今後の取組等	項
<p>①横断的なスポーツ推進体制の整備 【体育保健課】</p>	<p>○総合型地域スポーツクラブ交流会の開催にあわせ、福祉保健部と連携し、障がい者スポーツの体験や健康チェックを行う「おおいたスポーツ交流フェスティバル」を開催し、多様なスポーツ活動を体験できた。今後も関係部局と連携を図りながら、スポーツの振興に取り組んでいく。</p>	<p>P 37</p>
<p>②スポーツ関係団体の整備・充実 【体育保健課】</p>	<p>○各スポーツ関係団体と連携し、各種事業の整備・充実を図っている。「県民体育大会」「高等学校総合体育大会」「県民すこやかスポーツ祭」等の事業により、県民の健康・体力づくりや競技力の向上を推進している。また、スポーツ推進委員の資質向上のため「大分県スポーツ推進委員研究大会」を実施している。</p>	<p>P 37</p>
<p>③研究機関・医療機関・大学との連携 【体育保健課】</p>	<p>○成果としては、県成人病検診センター等と連携し、スポーツ医学を活用した競技力向上対策を実施できた。課題としては研究機関との連携不足があった。今後は大学や研究機関と連携を図り、横断的なスポーツ推進体制を整備する。</p>	<p>P 38</p>

【スポーツ施設の整備・充実と支援体制の整備】

目標		
<p>県立スポーツ施設の計画的な整備・充実を図るとともに、大分スポーツ公園を本県のスポーツ拠点施設として整備します。また、県民のスポーツ活動を支える支援体制の整備とあわせて、本県スポーツ振興の基盤づくりを推進する。</p>		
<p>人口1万人当たり公認スポーツ指導者登録数を、平成32年までに16.3人とする。</p>		
(基準値：平成26年度)	平成29年度	(目標値：平成32年度)
14.5人	17.6人	16.3人
具体的な取組	成果・課題・今後の取組等	項
<p>①県立スポーツ施設の整備・充実 【体育保健課】</p>	<p>○県立総合体育館については、屋内スポーツ施設完成後、県有施設としては廃止し、平成32年4月に大分市へ移管する準備を進めている。</p>	P 39
<p>②屋内スポーツ環境の充実 【屋内スポーツ建設推進室】</p>	<p>○新施設建設では、障がい者スポーツを含む関係団体と協議を重ね、設計や用具計画に反映させるなど取り組んだ。今後は、指定管理者の導入も含め提供するサービスの内容や質の向上に努めたい。</p>	P 39
<p>③支援体制の整備 【体育保健課】 【健康づくり支援課】</p>	<p>○県民のスポーツ活動における支援体制の整備に向けては、事務局レベルでスポーツ医科学機能の活用については、協議を重ねている。</p>	P 39

【スポーツ推進のための財政基盤の確立】

目標		
本県スポーツの推進に不可欠な財政基盤を確立し、限られた財源を適切かつ有効に活用する。		
具体的な取組	成果・課題・今後の取組等	項
①協賛企業とのパートナーシップの創出 【体育保健課】 【障害福祉課】	○企業の協賛を受け、「おおいたスポーツ交流フェスティバル」を実施した。SCおおいたネットワークが、企業とのパートナーシップを構築できた。イベント後も、企業の協賛を受け「スローエアロ」講習会を実施している。 ○現状として、大分国際車いすマラソン大会の協賛企業及び大分県障がい者体育協会の賛助会員の募集、大洲総合体育館自動販売機の売上げの一部寄付等を行っているが、十分とは言えず、今後も拡充の方針。	P 41
②財源確保に向けた具体的な取組の検討 【体育保健課】 【県体育協会】	○SCおおいたネットワークと連携し、クラブマネジャー養成講習会や総合型クラブ研修会など、総合型クラブの法人格取得のための取組を実施している。 ○自主財源の確保に向け、大分県体育協会賛助会員、スポーツ振興協力金、広告募金を募るとともに、自動販売機の設置を行っている。	P 41
③助成事業等の積極的な活用 【体育保健課】 【県体育協会】	○スポーツ振興くじ (toto) の助成を受け、総合型クラブハウスウォーキングイベントの委託や県民体育大会の財源として活用している。 ○本会の各種事業（国民体育大会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等）の実施状況を広く県民に周知するため年4回発刊している「スポーツ大分」に係る経費やスポーツ少年団駅伝交流大会において、スポーツ振興くじ助成事業を活用している。	P 41
④効果的な施策の実施と市町村の取組の促進 【体育保健課】	○スポーツの推進に係る事務事業評価により、事業の効率化・適正化を図るとともに、行政サービスの質の向上に取組んでいる。	P 41